

論 文 要 旨

学籍番号	81733127	氏 名	江木 達也
論文題目： クロスボーダーM&Aによる企業の業績成長に関する研究			
<p>(内容の要旨)</p> <p>日本企業にとってクロスボーダーM&Aは海外展開に向けた有効な戦略の一つであり、近年その件数や金額が増加している。また、経済産業省が「我が国企業による海外M&A研究会」を立ち上げるなど、政府の関心も高い分野である。一方、クロスボーダーM&Aを実行後、短期間のうちに多額の損失を計上する事例も増えており、日本企業はクロスボーダーM&Aに失敗してばかりで稚拙であるとの評価も見られるようになった。しかし、これらの減損事例は過去数年内に行われた取引に関するものが多く、実際にはブリジストンなど、実行後短期的は失敗と評されながらも、20年以上経過した現在では、成功だったと評されているクロスボーダーM&Aの事例もある。そのため、現時点で失敗と評されている取引が、将来的に長期的な業績成長に不可欠な取引だったとの評価へと転じる可能性もある。そして、そのようにクロスボーダーM&Aが長期的な業績成長に有効な戦略だと示せば、より多くの日本企業が、短期的な業績低下を恐れずにクロスボーダーM&Aを積極的に推進できると考えられる。</p> <p>そこで本稿では、クロスボーダーM&Aが長期的な企業の業績成長に有効な戦略だと示す目的で、クロスボーダーM&Aと企業の長期的な業績成長との関係性について、検証を行った。具体的には、①クロスボーダーM&A実行の有無による、企業の20年間にわたった業績成長率の比較、②クロスボーダーM&Aと国内M&Aに関する、実行後10年以上経過するまでの業績成長率の比較、および③クロスボーダーM&Aを行った具体的な個別企業の、クロスボーダーM&Aを行っていない企業と比較しての分析、の三つを行った。いずれの検証も、クロスボーダーM&A実施後10年以上の長期業績の成長率に主眼を置いている。</p> <p>検証の結果、クロスボーダーM&Aを実施した企業の長期業績は、そうでない企業の業績の成長率を有意な差で上回るとの結果が得られた。また、M&Aに投資を行っているにもかかわらず、資産効率についても、クロスボーダーM&Aを実施している企業の方が、そうでない企業と比べて有意な差が生じているとの結果が得られた。加えて、国内M&Aとの比較でも、長期的な業績成長に有効な戦略であるとの示唆を得られた。個別企業の分析でも、過去のクロスボーダーM&Aが長期的な業績成長の差に表れている事例が見受けられた。長期的な業績成長に向けて、クロスボーダーM&Aが有効な戦略であるとの示唆を得られたものと考えられる。</p>			
キーワード (5語) M&A、クロスボーダーM&A、国内M&A、企業業績、利益成長、事例分析			